



第10回 神戸女子大学看護セミナー

参加費
無料

移行期

における

支援

を考える

2025.9.23 火

申込締め切り日 / 2025.9.22 日

オンライン (ZOOM)

10:00 ~ 12:30

生活する場所の変化、成長発達による自身や周りの変化など、人々を取り巻く状況が移り変わっていくとき、精神的、身体的な影響があることを意識しケアを行うことが重要です。そこで、今回の看護セミナーは、「移行期における支援を考える」をテーマに、様々な専門分野での移行支援の現状を共有します。また、移行支援の現状を知ることで、移行期における本人、家族へのケアの方法について考える機会としたいと思います。

» パネルディスカッション » 「移行期における支援を考える」

コーディネーター 服部 律子 (神戸女子大学看護学部看護学科 教授)

パネリスト 磯村真由子 (聖路加国際病院 ナースマネジャー)

丸田梨矢子 (福岡市立こども病院 / 小児看護専門看護師)

峰 博子 (神戸女子大学看護学部看護学科 講師 / 母性看護専門看護師)

申込方法

参加をご希望の方は、QRコードもしくはURLから申し込みフォームにてお申し込みください。 \ Check! /
<https://wp.yg.kobe-wu.ac.jp/?p=248>

Zoom
アクセス方法

参加申込頂きますと、自動でZOOMのIDとPWが送信されますので、そちらよりアクセスしてください。



プログラム

10:00

開会の挨拶 (神戸女子大学看護学部学部長 玉木 敦子 教授)

10:00~12:00

パネルディスカッション

「移行期における支援を考える」

コーディネーター/服部 律子 (神戸女子大学看護学部看護学科 教授)

パネリスト/磯村 真由子 (聖路加国際病院 ナースマネジャー)

「病院における療養移行支援 (仮)」

丸田 梨矢子 (福岡市立こども病院/小児看護専門看護師)

「思春期の子どもたちが入院した際に配慮すること」

峰 博子 (神戸女子大学看護学部看護学科 講師/母性看護専門看護師)

「親になることへの移行支援」

12:00

閉会

12:00~12:30

アフタートークルーム (希望者のみ)



講師およびコーディネーター紹介

磯村 真由子

聖路加国際病院 ナースマネジャー

2002年聖路加国際病院入職。混合病棟、緩和ケア病棟勤務後、2015年から相談・支援センター/療養サポート室に療養支援(退院支援)看護師として勤務。2019年より5階西病棟(呼吸器センター病棟)アシスタントナースマネジャーとして、2024年のよりナースマネジャーとして勤務。2023年千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了。修士研究は「急性期病院一般病棟看護師の退院支援実践力向上プロジェクト」。院内の療養支援検討会委員長として療養支援リンクナース育成研修、療養支援の向上に携わる。またACPプロジェクトメンバーとして患者・職員へのACP普及活動を行っている。

丸田 梨矢子

福岡市こども病院/小児看護専門看護師/副看護師長

2011年3月兵庫県立大学大学院看護研究科博士前期課程高度看護実践コースを修了。
2012年に小児看護専門看護師の認定を受ける。宮崎大学医学部附属病院で活動を開始。実践を中心に、入院中の小児がんの子どものケア、外来受診時の医療的ケア児のケアを行う。2018年から地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院に勤務。現在、小児整形外科の入院中の子どもを中心にケアを実践しながら、院内の看護倫理、看護研究の研修に携わり、教育的な役割も担っている。2024年から神戸女子大学大学院看護研究科博士後期課程に在籍。思春期特発性側弯症で手術適応となった子どもたちのケアについて研究を行っている。

峰 博子

神戸女子大学看護学部 成育看護領域 母性・助産看護学分野 講師/母性看護専門看護師

大阪府立看護大学院修了後、田附興風会医学研究所北野病院で産科病棟師長として、地域周産期母子医療センターの立ち上げや助産師・看護師教育などに関わる。在職中の2010年に母性看護専門看護師認定を受ける。2015年に大阪市立総合医療センターに移り、母性看護専門看護師として総合周産期母子医療センターでの社会的・医学的ハイリスクの妊産婦ケア、倫理コンサルテーションチームに所属するなど、看護職チーム・多職種と協働しながら活動を行った。2020年に地域での助産師活動に転じ、訪問事業を中心に開業で活動。2022年から助産師教育に携わり、2024年度から現職。

服部 律子

神戸女子大学看護学部・看護学研究科 成育看護領域 母性・助産看護学分野 教授/岐阜県立看護大学名誉教授

千葉大学看護学部卒業、京都女子大学家政学研究科児童保健学修士、学術博士。助産師・看護師・保健師の実践をへて1995年京都大学療技術短期大学部助教授 2000年岐阜県立看護大学看護学部教授 2004年岐阜県立看護大学看護学研究科教授 2022年より現職。ハイリスク妊産婦と家族の看護支援をテーマに研究と実践活動を行っている。特に多胎育児支援に関して「地域多胎ネットワーク」の理念に基づいて当事者団体や多職種との連携と協働を基盤とする支援活動に取り組んでいる。「ぎふ多胎ネット」では活動の立ち上げから支援(団体として厚生労働省第7回健康寿命をのばそう!アワード)母子保健分野優秀賞受賞。「ひょうご多胎ネット」でも顧問として本学での研修会の開催や各種講座を担当し、看護職の支援のあり方を研究している。